

## 令和7年度第1回古賀市総合政策検証会議 議事要旨

### 【開催概要】

開催日時：令和7年9月30日(火) 19:00～20:50

開催場所：オンライン開催（事務局は、古賀市役所501～503会議室）

出席者：

（委員）※全員オンライン参加

豊貞委員長、文屋副委員長、橘委員、長委員、藤井委員、南委員、宮原委員、小島委員、吉岡委員、河野委員、占部委員、高野委員

（事務局）市長、副市長、総務部長、市民部長、保健福祉部長、建設産業部長、教育部長、経営戦略課長、経営戦略係長、経営戦略係員

### 【議事・要旨】

1. 市長あいさつ	
2. 委員長あいさつ	
3. 審議事項	<p>(1) 令和6年度主要な事業の実績に関する検証</p> <p>令和6年度主要な事業の実績に関する検証について、資料1ご覧ください。今回は令和6年度に実施した事業の中から、主要な事業として、古賀市独自の取り組みの事業を中心に基本事業単位で計10事業を選定いたしました。事業ごとに担当部署より概要を説明しまして、委員の皆様から、ご意見を頂戴したい</p> <p>●防犯対策推進事業</p> <p>(質問)</p> <p>先ほどの詐欺被害が増えているっていうところが報道にあったと思いますけど、これについて対策っていうのはありますか。</p> <p>(回答)</p> <p>広報誌やホームページなどでの注意喚起等を行っているところです。</p> <p>(質問)</p> <p>優良都市との比較検討の状況はないということですが、このあたり今、問題になっているので、そのシートのいいかは問わず、ある程度やっぱり例えば福岡県だけでもいいところとか悪いところとか、それは比較検討してする必要があるんじゃないですかね。今16カ所の25台ということですが、これが多いのか多くないのか、同規模の自治体としてどうかということは、やっぱりある程度比較検討する必要はあるんじゃないでしょうか。</p> <p>(回答)</p> <p>何をもって防犯優良都市とするかというのは、その都市の規模とかですね、状況によっても違うので、ちょっと難しいところですが、データがあるのかどうか、調べさせ</p>

ていただきます。

●デジタル化推進事業

資料に沿って説明。

事前質問回答

8月9日の午後においては、市公式LINEでも情報発信を行っております。市公式LINEは設定する際にですね、必要な情報を選んでいただくようになっておりますので、防災情報が届いていない場合は防災の項目を選択されていない可能性がございます。ご確認いただければと思います。

(意見)

私の体験の共有で、谷山という山の方に住んでますけども、あの地図情報システムを皆さんにちょっと説明すると、非常に評価が良くて、私も使えるサービスだなと思ひまして。一方で、意外に皆さんまだまだ知らない。素晴らしいサービスを作られたなと思ひますので、もっと大々的に言いたいんですけど、谷山ではまあ限界があるので、なんか市の窓口とかですね、もっと積極的にアピールされてもいいんじゃないかなと思うぐらい、非常にいいという声をいっぱい聞きますというお話です。

(質問)

生成 AI の活用についてなんですが、具体的にはこういった場面での活用を想定されているのでしょうか。

(回答)

例えば、会議の議事録などを読み込ませており、答弁の準備に使うとかいったことを検討はしておりますが、まだ様々なデータ読み込み途中でございます。ですから、今は使い方を職員も学んでいる途中小賀市版の生成 AI と、あとは既にある外部の生成 AI と合わせて使うとか、している職員いる状況でございます。

(質問)

外部の AI 利用について、どこのを使うようにみたいな規定はあるのでしょうか。

(回答)

今のところチャット GPT を使っています。※まだ使わないでくださいということで、担当官方が言っているものもあります。

(質問)

セキュリティ的なその問題を抱えている可能性があるものは市の担当で把握して、その利用を抑制、コントロールしているような状況ということでしょうか。

(回答)

現段階ではそうです。

●幼児教育保育提供事業

資料に沿って説明

事前質問回答

過去 2 歳児クラス以下の子どもで、保護者の育休取得に伴いまして退園していただいた件数があります。年度によって異なりますが、令和 5 年度は 33 名、その前の年の令和 4 年度は 25 名いらっしゃいました。原則退園の運用を廃止しました令和 6 年度の実績としましては、対象者は 15 人、そのうち 11 人が制度を活用し、継続利用をご希望されております。残り 4 名の方は退園ということを選択されております。

●児童センター管理運営事業

事前質問回答

昨年度よりも来館者数が増加しておりますが、管理運営上の安全管理ということで、スタッフの勤務出勤時間でありませうとか、勤務日数を増やすという形で、子どもたちあるいは保護者が安全に児童センターで過ごせるような対応を取っております。また、光熱費につきまして、児童センターにおきまして、適度に保つということがございますので、特段その来館者増によって光熱費が影響を受けたということは発生しておりませう。

(質問)

先ほど来館者数が増えたというご質問の中で、0 歳から 18 歳はかなり幅広い中で、どの辺りの方が子どもなのか、もうちょっと高校生なのかとか、あるいは問題を抱える方が増えているのか、あるいは子どもたちが遊び場になって、そっちが増えているのか、何か事情が分かりましたら教えていただきたいと思ひます。

(回答)

押し並べてですな、増えているというところがありますが、特に来館者数が伸びているのが、千鳥児童センターになります。児童センターが市内に 3 つございまして、青柳の児童センターと千鳥児童センター、ししぶ児童センターの 3 館ございまして、その中で千鳥児童センターの来館者がかなり伸びております。ここは音楽スタジオなどを備えた児童センターになっており、また独立した自習室、勉強のできる部屋もありますことから、中高生の利用が口コミで増えて、利用が多いということで報告させていただきます。

●人と動物との共生社会推進事業

資料に沿って説明

事前質問回答

ペットと共に避難できる避難所の指定と防災マップの記載についてでございます。

ペットにつきましては、市が開設する学校体育館の避難所では原則同行避難は可能でございます。ただし、ケージに入れていただくこと、またペットフードは持参していただくことなど、飼い主が責任を持ち、管理をしていただくようお願いをしております。また、防災マップの記載についてですが、この度、内容を更新し、9月下旬に全戸配布を行っております。なお、避難所のペットの同行の記載につきましては、前回と同様になっております。

次に、ペットと暮らすシニアの備えサポート制度の中での検討は、についてお答えいたします。このサポート制度は、介護保険の要支援・要介護認定者が対象でございます。飼われているペットの状況をケアマネージャーを通して事前に把握しまして、要介護認定者が緊急入院などされた時に、サポートにつなぐという制度でございます。災害時のように広範囲で同時多発的に発生するものに対しては、想定をしていない制度でございますから、※一緒に考えることは困難ではないかということで考えているんでございます。

(質問)

猫に関する苦情件数が年々減ってきてるのは、何かやられた結果でしょうか。

(回答)

猫に関する苦情につきましては、猫の去勢手術等を地域猫活動という形で、去勢手術とか、不妊手術等を行って、野に放しているっていうのもございますので、少しずつでもこういった猫が繁殖していくのが少なくなっているものではないかと考えております。

(質問)

いわゆる野良猫っていうわけではないんですか？地域猫っていうのは、飼われている猫ではなくて、いわゆる野良ですかね。

(回答)

地域猫っていうのは基本的には野良の分になっています。野良の猫を放っておくと、どんどん繁殖して多くなってしまいますので、地域猫活動ということで猫を捕まえて去勢手術をして、その猫を最後まで管理していくというやり方をします。餌をやるとか、そういった形で最後まで面倒を見ていくというのが、地域猫活動という形です。基本的には野にいる猫を捕まえて去勢手術をして放すというような形の活動を行っています。

(質問)

一番多い苦情っていうのは、猫が多くいるから発生してる苦情だったっていうことでいいですか？

(回答)

はい、基本的にはそうです。

(意見)

いや、えーと通常じゃない比率で落ちていってるから、なんかすごいことをされたのかなと思って、えーと質問させていただきました。

(回答)

基本的にはこういった猫活動で、去勢手術等を行って、増えていくのを抑えているというような形になります。

#### ●観光客誘致促進事業

資料に沿って説明

(質問)

観光案内所の案件数が令和2年、3年、4年、大体2000から2300ぐらいで、令和5年の一気に2900、これは大きな何か観光客が増えたとか案内の件数が増えたとか、運動か何かされたんでしょうか。

(回答)

これはコロナ明けというのが、一番大きなところではないかと思っております。

(質問)

あのコロナ明けということは、その前だったら令和2年ぐらいになるんでしょうか。大体2000件ぐらいで、やっぱりコロナ明けの一気に増えたということですかね。

(回答)

そうですね。観光スポットが増えたのは事実でございますけど、人の動きが増えたというのが一番大きな要因ではないかなと思っております。

(質問)

観光誘致の市の努力、皆さんの努力が実ったということはどう考えてるんですか。そういう目的で来られた方が多くなったということですか。

(回答)

古賀駅の西口に、若者が集う場所というのが実際つくられておりますので、そういうところに来た方が問い合わせさせていただいているというのは事実でございます。

(質問)

3000件近く観光について問い合わせしてくれる人が来てくれると助かりますよね。私も最近、駅の近くのいろんなお店ができていて、まあ地元ではありますけども、いろいろ訪れて聞いたりしたことがあるんですけど、やっぱり以前とは違って、いろんな

その店主の方とか個人の方とか、そこに店におられた方も積極的にいろいろ案内をしようというか、教えてあげようとかいうのは確かにあの増えてきたかなという気がしますので、今後ともこういう呼びかけというのは大事だろうと思います。

●学習支援体制充実事業

資料に沿って説明

事前質問回答

学校での不登校傾向への児童への対応や基本的ルールにつきましては、不登校の支援については、文部科学省の誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策こころプランに基づいて、また、福岡県教育委員会による不登校支援児童生徒支援グランドデザインなどを含み、県の指標などに基づきまして、不登校児童生徒一人一人の状況に応じて支援内容について校内委員会等で協議した上で支援チームを作り、それぞれの児童生徒に応じた支援を行っているところでございます。また、あすなる教室の在籍人数につきましては、おおむね上限 40 名程度です。季節によって時期によって異なりますが、おおむね 40 人程度で推移していくところです。関連しまして、小中学校合計の不登校児童生徒数につきましては、令和 4 年度は 204 名でしたが、令和 5 年度は 231 名、令和 6 年度は 246 名と、全国的な課題ではありますが、増加傾向というところになっております。また、開館時間についてのご質問にお答えいたします。あすなる教室は、青柳の児童センターの中にございまして、児童センターと併設されていることから、15 時以降になると、子どもさんが児童センターで、遊ぶということも可能でございますので、15 時以降の預かりの居場所としての機能というものもでございます。

(質問)

指導を希望する児童生徒、これに関しては 100%達成できているけれども、この具体的な人数というか、どのぐらいの対象者がいるか。

(回答)

令和 6 年度に 25 名の児童生徒が対象となっております。

(質問)

増えているか？同じぐらいの傾向か？

(回答)

令和 4 年以前のも的是ございませんが、増加傾向にあると思います。令和 6 年度につきましては、25 名の児童生徒が受講をしております。

(質問)

これに関してはもうこのあとも 100%を継続できそうな感じということですか。

(回答)

はい、その方向性で検討をしております。

(質問)

不登校の児童が増加傾向というのは全国的なところだと思うんですけど、市としては一番の原因は何だと考えていますか。

(回答)

不登校につきましては様々な原因がございますので、ご家庭の状況であったり、その子どもさんの特性のものであったり、様々なきっかけとございますか、そういったものがそれぞれの子どもさんによって異なります。また、不登校が増加しているということは早期の発見につながっていく。早めに発見して手当てをするという形で挑んでおりますので、不登校が増加という数字的な増加の捉え方もできますけれども、早めに不登校の子供を見つけて支援につなげて、学校復帰とございますか、そういった形につなげることも一つと捉えております。原因については様々なことが考えられると考えております。

●文化財調査研究推進事業

資料に沿って説明。

事前質問回答

観光面からは文化財の保存と活用といったことになると思います。古賀市立の歴史資料館では、保存している文化財を活用して、古賀市の歴史を語る様々な資料物展示でありますとか、学校の変遷でありますとか、戦争と暮らしなどを捉えた形で、現在保管している埋蔵文化財や歴史的な資料、これを用いて企画展などを行っております。また、市内外の小学校の見学の受入ですとか、市外団体などは市内の遺跡を巡った後に歴史資料館に立ち寄って見学していただくケースなどもございます。今後は国の重要文化財を目指しております船原古墳について、歴史的観光の資源としての活用についてリーバスプラザこがのリニューアル計画を今推進しているところがございます。これらの改修計画と併せて、歴史資料館の内容の充実などに努めていきたいと考えております。

(質問)

以前にもお伺いしたことになるんですが、リーバスプラザこががリニューアルを進めておられるということで、歴史資料館の単独のホームページとか、あの所蔵品がこうわかりやすく分かるような、ウェブページとか、そういうのを新たに作ったりは、今のところはまだ予定はないような感じでしょうか。

(回答)

以前もご提案いただいております歴史資料館でのウェブページといったものの活用は検討していないんですが、あの YouTube チャンネルでありますとか、パルコフ

とか今の船原古墳の遺物を模したキャラクターを作るなどして、YouTube やそういったもののデジタルの発信については行っているところでございます。歴史資料館自体のウェブページについては引き続き検討させていただきたいというふうに考えております。

(質問・意見)

YouTube とか、そういうキャラクターを作ったりとか、いろいろ意欲的にされてるなという印象あるんですけど、例えば市外の方だと足を運ぶ前にこのちょっとどういところなのか知りたいなというときに、いまいち見えてこないというのが、YouTube とか動画とかだと視聴ハードルも若干上がりますので、ウェブページ、今までよりもっとわかりやすくなったらいいのかなど。何度もすいませんが思っておりますので、ぜひご検討いただければと思います。

(質問)

事務事業の方の民間受託事業等発掘調査事業の記載の部分で、ここの記述では基本的にはその地域の文化財などを保全できるよう、計画変更などを開発事業者へ丁寧に説明するという記載で、この事業の担当者としてはそうなんだろうというところなんですけれども、この辺の話について建設産業部長さんとかはどのようにお考えなのか、もし可能であれば教えてください。

(回答)

基本的には出たからには適切に保存せざるを得ないという認識で、市内の開発は進めております。

#### ●認知症総合支援事業

資料に沿って説明

(事前質問回答)

認知症高齢者等見守りシールについて、この事業は認知症により行方不明の恐れがある方で、以前から実施しております認知症高齢者等行方不明 SOS ネットワーク事業に登録していただいている方を対象としております。行方不明時に SOS ネットワーク事業の認知症高齢者探してメールのメールでの検索に加え、QR コードを併せてご利用していただくことで、迅速な発見につながることを目的としております。周知方法としましては、高齢者の総合相談窓口でございます地域包括支援センターやケアマネージャーが、認知症により行方不明になることがご心配なご家族にご案内しまして、登録を進めております。その他、市ホームページや認知症の人に関わる医師、病院等や、行方不明時に検索活動を行っていただく警察などに周知へのご協力をいただいております。令和 6 年度に登録していただいた件数は 6 件でございます、このシールを実際に活用されたケースは 1 件でした。状況としまして、認知症高齢者の方が自宅から裸足で出かけられ、公共施設前で発見され保護しております。発見された際に、衣類へ QR コードが添付していただいていることに気づきまして、QR

コードを撮影、QRコードを読み取りしますと、自動的に瞬時にご家族、市役所にメールが送信されます。また、QRコードを読み取られた方が発見場所などの情報を入力し、送信していただきますと、最新情報がメールで送信されるというような流れになっております。今回のケースは、その後、ご家族の方が発見場所にお迎えに来られまして、無事引き渡しが行われ終了しております。

(質問)

先ほどのあの成果指標の数値の方になりますが、この自立度2以上の認定者数というのは、例えば令和6年度に認定された方が1867人か、それとも古賀市の総数の令和6年度の1867人か、どちらなのかなと思ってそこをまず教えてください。

(回答)

トータルでございますので、令和6年度にというよりは、令和6年度末に登録された総人数になります。

(質問)

そうしたら全国的にかなり認知症の方のパーセンテージとしては古賀市は少ないと捉えて大丈夫でしょうか。例えば令和7年3月末の後期高齢者、七十五歳以上の方が9200人で2以上の方が延べで1700人ということは、一般的な六十五歳以上の方の約3分の1とか、75歳以上といたら5から7人に1人が認知症と、あの全国的には言われていますが、かなり少ない人数の認定者数ということで捉えて大丈夫ですか。それとも拾えていないのか、どちらなのか。

(回答)

この数字は介護の認定がまずベースになりますので、古賀市の取り組みとしまして、予防の方に力を入れております。そういった取り組みが実際に生かされているのかどうかというところまでは、胸を張って言えませんけれども、古賀市の取り組みがつながっている結果だとは思っております。介護保険の認定の手続きを取られることが、つながってるかどうかというところですけれども、古賀市で包括支援センターを3か所に設置しておりまして、いろんな形でのご相談等も、あの、受けさせていただいておりますので、その中で介護が必要サービスにつないでいきたいというご相談は受けさせていただいてサービスにつなげております。その結果自立度2以上というところの数字の方につながっているというのが現状でございます。

(質問)

そうしましたら、認知症のこの今の自立度2以上の方というのは、例えばその買い物で同じものを何度も何度も同じものを買ってくるとか、結構生活上でのご苦労困りごとが多いのが人以上になるですけれども、その方々の介護に何らかの申請とかでかかった方の人数が1867人で、古賀市全体の自立度2の方の認定者数を表しているものではないという風に捉えて大丈夫ですか。

(回答)

古賀市全体というかとりあえずは介護保険の申請をされるサービスに至った数字でございますので、委員ご指摘のように、申請をされてない方もいらっしゃるかもしれませんが、基本必要なサービスを提供するために介護保険の申請を皆さんされます。その中で拾った数字になっております。

(質問)

あとは今回の登録者が6名であったというところの評価になるんですが、やはり普及や啓発に関しての課題があったのか、もしくはこの方法がシールということとか、QRコードの方法論で、対象者となる方々、もしくはご家族への受け入れの問題ということが苦になったのか、課題によってやはりその次の何ですかね、ステップが変わるかなと思いますので、そこをどのように評価されているかを教えてください。

(回答)

先ほどもご説明させていただきましたけど、QRコードの申請をされる前段階といたしまして、認知症高齢者等行方不明 SOS ネットワーク事業というのに登録していただくというのがまず大前提になります。その分、対象者、今45名の方がその SOS ネットワーク事業に登録していただいております。そのうち登録はしていただいておりますけれども、施設や入院等でご自宅にいない方もいらっしゃいまして、自宅で今現在この QR コードの対象になるのは45名のうち26名の方が対象になっております。その26名の内の6名の方が、今回、令和6年度登録していただいているということでございますので、確かに残り20名の方が全てご登録をしていただければよろしいんですけども、こちらの方といたしましても、いろいろ周知、声かけ等をさせていただきながら、ご家族が判断された上で手続きの方をしていただいておりますので、今後も引き続き登録していただくようにお声掛けはしていきたいと考えております。

#### ●下水道事業経営改善推進事業

資料に沿って説明

事前質問回答

市内に約280キロあります下水道管の老朽化率は約15%です。ただ、このパーセンテージというのは耐用年数の50年を経過した管の割合でありまして、実際にはよほど環境が悪くなければ、下水道管は75年ほど使うことができます。よって、更新率というのはなかなか明示できにくいのですが、毎年の工事で全体の約1.5%ほどの距離の更新を行っております。また、最近、下水道に起因する事故に関しまして、市民の方からご質問をいただく機会がありますが、国が緊急点検を命じた管は直径2メートルを超える管というものでございまして、古賀市にはございません。古賀市内で一番大きな下水道管は約1.7メートルぐらいのものになります。その上で、古賀市は、大きな管は5年ごとに、枝管は10年、15年ごとに一回カメラ調査を行うことと

しております、陥没事故につながりそうなものは、その場で修繕を行っているところでございます。また、使用料の値上げに関しまして、電話で市民の方から数件お問い合わせを受けましたが、インフラ維持の必要性を述べましてご理解をいただいております。どうしても福岡市の下水道使用量と比べられますと高いというご意見をいただきますけども、福岡県内の自治体の中では上位で、こちらは料金ともに真ん中ぐらいに位置する料金体系をとっております。

**(2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2～6年度）令和6年度実績に関する検証**

資料に沿って説明。

(質問)

7ページの転入者、移住者というのがどちらから来てるのか疑問に思いましたので教えてください。

(回答)

転入者というのは市外から住民票を古賀市に移された方を転出者という形で表しております。

(質問)

市外からの転入といえば、福岡市であるとか、どういう方が古賀市に転入されるのか。

(回答)

傾向としては福岡都市圏の方が大体6割から7割を占めている傾向がずっと続いておりまして、近隣の方が福岡市のベッドタウンとして活用するということで移住されるケースが多く見られます。

(質問)

逆に転出者っていうのはどこに出ていったかわかるのでしょうか。

(回答)

そちらも同様でして、近隣でその大規模な住宅開発などが行われた場合は、そちらの方に移住、転出される傾向が多く、最近では新宮町や福津市への移住が一時期多くなった時期がありましたが、こちらも大規模な住宅開発というものではないかと考えます。

(質問)

先ほど質問された年少人口が減っているけれども保育所に入る子供は増えているんですかね。令和6年はかなり少ないです。

(回答)

こどもの出生率等は減少傾向にございますけれども、保育のニーズ等は増えております。いろんなご家庭、働き方も含めまして、お子さんを保育所に預けてというところの、ニーズ等は増えておりますので、そういった意味では、待機児童等が年度末に向けて増加傾向にあるというのも、そこにつながっていくかと考えております。

(質問)

15歳未満の中で極端に減っている年齢層っていうのはないのかもしれませんが、どこかが減っているということで、全体が減っているっていうのもあるとは思いますが、その減少率と、出生率とかそういうものときれいに比例してるんでしょうか。

(回答)

何かどこかの年齢層だけが、大幅に減少したのはやはりその結婚人数が減った時に連動して出生率が普通の数年後に減るという傾向がありまして、コロナ禍の時に婚姻数が大幅に減少して、すごく今出生率が大幅に減少しているというのがあります。詳しい分析というのはやってみないとわからないところではあるんですけども、そういったところに起因する可能性も高いのではないかなど。年齢区分に応じた分析をしております。

(質問)

分析の結果が小学校とか中学校のこうキャパっていうのに反映されてくることで、この地区は次、中学校これぐらいだろうとか、小学校これぐらいだろうだから、ここにこういう、まあ教員が必要だろうみたいなことにつながっていくんだと思うんですけど。

(回答)

出生率でそんなに大きな人口変動っていうのはないんです。例えばその近隣で言いますと、大規模な住宅開発があって、そういった子育て世代が急遽流入した時とかは、そういったことを想定されておりますし、まあ古賀市の中でも将来的なそういった開発が実現すれば、学校の体制についても検討していく必要があるのではないかなという考えです。

(質問)

今後も市内に住み続けたいと思っている市民の割合について、令和4年度は目標未達成ですが、これはその数値だけじゃなくて、その理由とかまで分析されてるんでしょうか。

(回答)

市民意識調査という、数年に一度、これまでやってきたアンケート結果を基に出している数値でして。理由の深掘りまでしているか、手元に資料がないのわかりません。

(質問)

一番最初のテーマであった仕事の創生の 4 ページ目のところに、コスモス館の売上高っていうところで、私もよく利用するコスモス館ですけど、確かに KPI が年間 5 億ってことで未達成ではあるんですけども、これまでの傾向を見ると令和 6 年度が 4.1 億円ということで、何か上昇傾向に入ったのかなというふうに思ったんですが、この辺ってどういうふうに評価されているのかをお聞きしたい。

(回答)

一番多い時期は平成 20 年とかそういうレベルですけど、5 億 6,000 万という時期がございました。それに比べれば会員数が今かなり減ってしまっていて、あと上昇傾向にするにしても、昼に行くと物が無いという課題がずっと続いていますので、今後その在り方検証の中で、何かしら売上を上げるために物が無いとダメなので、まあ魚介類というのは難しいと思いますけど、工場とかもいっぱいありますので、そういうところを仕入れながら、伸びるチャンスはあるのかなとは思っています。現時点では横ばいという意識の方がちょっと普通でございます。

(意見)

近くにピエトロさんも来ると思うので、今後そういう傾向に入ればなんと、一市民として期待しておりますので、よろしく願いいたします。

(質問)

内容というよりも、11 ページ、13 ページ、最後の 20 ページのこれは文章が全く同じだけど、5 年実施、6 年実施、これもほぼ同じ文章なので質問の内容が違うか分かりませんが。

(回答)

施策として、人の支援と人の流れの支援というところで、あの施策が目標の中にいろいろと被ってくるところもございまして、そういったところについては、施策を一つの目標だけではなくて、複数の目標に入れるということがあって、そういった関係上、同じ施策がそれぞれの目標に入ってしまうような形になってしまっております。わかりにくくて申し訳ございませんでした。こういう形で今回は整理しておりますけれども、見やすい方法を考えたいと思います。

(質問)

こういったたくさん資料、施策ありますので、例えば 5 と 6 は同じ施策ですということなどをどこかに付記するか何かしておけばですね、同じ内容を読み込む時間もなくなるし、私も一生懸命読み込むときに、これ同じ文章だなということになるので、

<p>時間をもったいないなということで、感想です。</p>
<p>(3) デジタル田園都市国家構想推進交付金令和6年度事業に関する検証【地方創生推進タイプ】</p>
<p>資料に沿って説明 (4)と合わせて質疑応答</p>
<p>(4) デジタル田園都市国家構想推進交付金令和6年度事業に関する検証【地方創生テレワークタイプ】</p>
<p>資料に沿って説明</p> <p>(質問)</p> <p>聞き逃したのかもしれないですが、地方創生推進タイプというのは、令和4年、令和5年、令和6年の結果が出ているように思いますが、これはもう終わったっていうことですか、この後、令和7年、令和8年と続いていく事業なんですか。</p> <p>もう一つの方がテレワークタイプというのが、令和6年、令和7年、令和8年、去年始まって来年度までという事業なんですか。</p> <p>(回答)</p> <p>地方創生推進タイプにつきましては、3か年の事業というのが基本になっております。こちらの事業につきましては3年目になりますので、令和6年度で事業については終了となっております。もう一つのテレワークタイプにつきましては、こちらも3年、3年間の事業でございますけど、これはまだ今年度で2年目というふうになります。6、7、8年度と続く3か年の事業となっているので、このような表記になっております。</p> <p>(質問)</p> <p>ということは、我々がやらないといけないのは地方創生推進タイプについては総括っていうことで読み取っていくってことで、もう一つに関しては来年度まで途中経過のデータとして読み取って、何らかの形で評価しないといけないということですかね。</p> <p>(回答)</p> <p>そうですね。あの、毎年度評価をしていただくというふうになっておりますので、その年度毎度ごとに成果について検証をしていただければ。</p> <p>(質問)</p> <p>東京で企業誘致のイベントをされたということですけど、これは対象先というのはどこかリストアップされてやられたんでしょうか。それともう一つ、あの物産展は神戸でしたということで、これはあの協会に加盟したということで古賀市独自ではなかったと思うんですけど。神戸よりも首都圏でやった方が効果があったのではない</p>

	<p>かと思いました。東京でのイベントするぐらいなら物産展も一緒にやったらどうかと思ったりします。</p> <p>(回答)</p> <p>東京での誘致イベントにつきましては、委託先の企業の方で、地方進出の意向のある企業さんを募集していただきまして、古賀市に興味を持っていただいた事業者と実際にお話を聞く中で、実際に招待する事業者を決めていく形で進めております。</p> <p>神戸のイベントにつきましては、今回の事業とはまた別の事業になりまして、この中には事業としては入っておりませんが、イベント先というところは県が主催して、うちの方はそれに参加した形だったので、場所が限定されていたというのが現状事実でございます。</p> <p>(意見)</p> <p>恐らく物産展ですから、自分のところだけではなかなかできんと思いますので、どこということを選ぶわけにいかんでしょうけど、やっぱり効果のあるところ、やっぱり人口密度の高いところとか狙ってやった方が効果的だろうと思うし、今の企業の誘致についても古賀は大きな工業団地もあって進出しているところがあるし、そのあたりの関連会社とか協力会社とか、その辺からの紹介だとかリストだとか、こういうところはどうかとかいうような、その辺の案内とか、もっと効率的にいいところがいっぱい出てくるんじゃないかと。どんどんやっぱりその辺やっぱ世界的にも有名な企業もたくさんありますし、やっていったらいいんじゃないかという具合に思いました。</p>
6. その他	事務連絡